

みなとのニュース

小樽港港湾計画改訂について

小樽市産業港湾部 港湾室

1. はじめに

小樽港は、北海道の西部、積丹半島の東側、石狩湾に面する弓状に入り込んだ海岸線に位置し、古くから鮭や鯉の豊漁地として知られてきましたが、明治初頭に石炭の積出しや内陸部への物資供給の中継港として発展し、明治32年の開港以来、昭和26年に重要港湾に指定された歴史ある港です。

また、北、西、南の三方が山・丘陵で囲まれていることから比較的静穏度が高い天然の良港であるとともに、市街地に近接し、高速道路が直結しているほか、JR駅とも近く、交通アクセスが良好な港であります。

本港の背後圏は、後志管内及び北海道の政治・経済、人口が集中する札幌市を中心とした地域となっており、北海道日本海側港湾で唯一の長距離フェリー航路による北海道と本州との海上輸送、中国定期コンテナ航路やロシアとの対岸貿易、大型船による穀物取扱など、日本海側物流拠点港として重要な役割を担っております。

一方、小樽港マリーナの整備や、小樽運河の再整備、小樽築港駅周辺の再開発など、市街地に隣接した立地特性を活かしたウォーターフロント空間が創出されているほか、平成23年には日本海側拠点港(外航クルーズ)に選定され、クルーズ拠点港としての役割も担っております。



小樽港全景

また、災害時における背後圏への緊急物資等の輸送や太平洋側港湾被災時の代替港など、市民生活や企業活動を支える防災拠点としての役割があります。

2. 小樽港港湾計画改訂の背景

小樽港の港湾計画は、平成9年の改訂後、20年以上経過し、我が国を取り巻く経済・社会情勢や本港の利用状況等が大きく変化し、その計画と現状の港湾利用に乖離が生じ、古くからの機能と新たな利用要請が混在している状況であり、小樽港の特徴である多様な機能を生かした港湾空間の効率的な利用再編や再開発が求められていることから、本港の開発、利用及び保全を行うに当たっての指針となる港湾計画を令和3年12月に改訂しました。

3. 小樽港港湾計画の方針

令和2年12月に策定した「小樽港長期構想」で掲げた将来像『ひと・ものが世界と行き交う北海道日本海側の物流・交流拠点 小樽港』を実現するため、令和10年代後半を目標年次として、物流・産業、観光・交流、安全・安心の3つの観点から、港湾計画の方針を定めました。

(1) 物流・産業の基盤強化

日本海側の基幹航路をはじめ対岸貿易における地理的優位性やこれまでの港湾機能集積を生かし、北海道の経済・産業を支える物流拠点としての発展を目指す。

- ①日本海側フェリー拠点の形成
- ②北海道日本海側における穀物基地の形成
- ③多彩なネットワークで結ばれる対岸貿易拠点の形成
- ④沖合・沿岸漁業を支える水産活動基盤の形成

(2) 観光・交流の基盤強化

国内有数の観光都市であるポテンシャルやクルーズ船をはじめとする多様な船舶が寄港する海のゲート

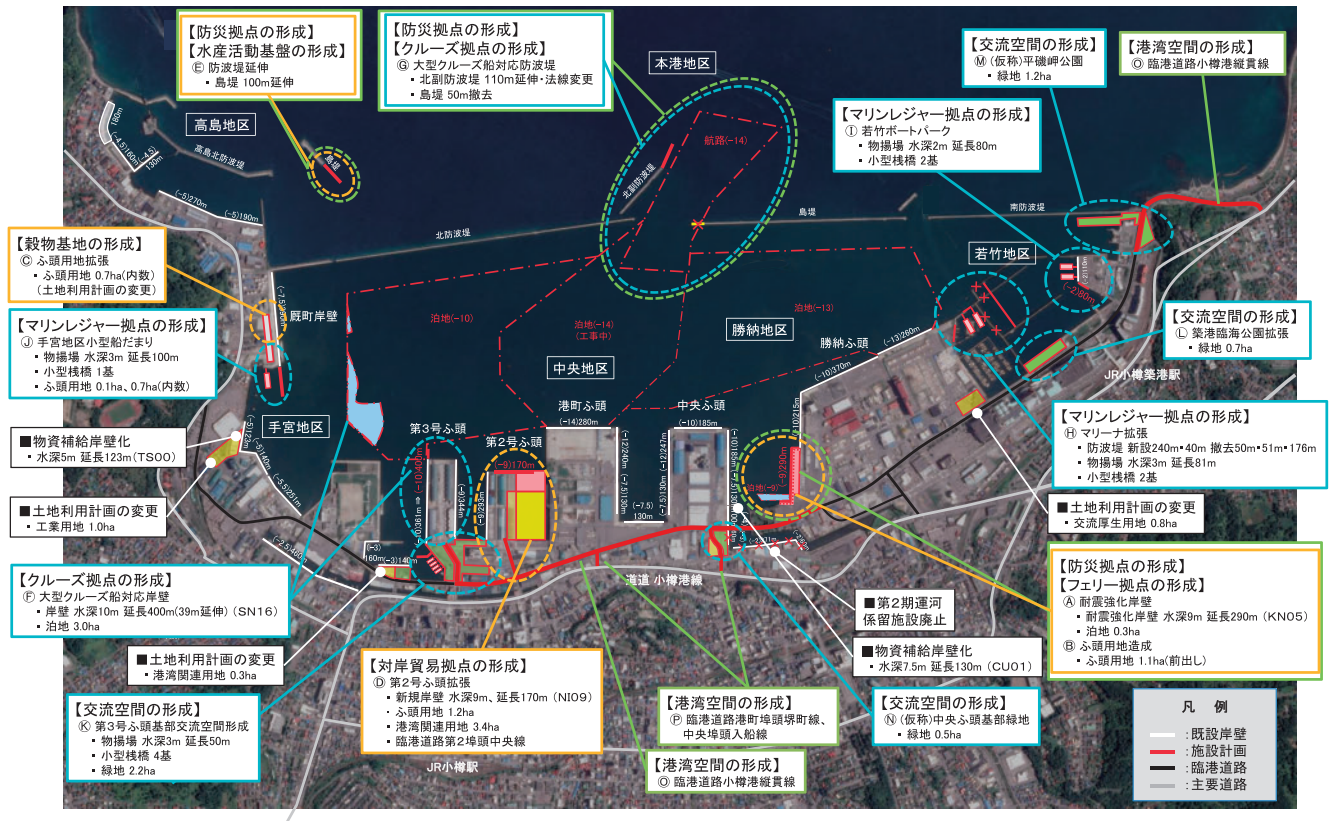
ウェイを生かし、国際的な観光・交流拠点としての発展を目指す。

- ①北海道日本海側におけるクルーズ拠点の形成
- ②北海道のマリンレジャー拠点の形成
- ③観光都市にふさわしい交流空間の形成

(3)安全・安心の基盤強化

災害リスクが少ない日本海側に位置する天然の良港である優位性を生かし、道内外被災地への災害支援などの防災拠点としての機能を強化する。

- ①道央圏日本海側の防災拠点の形成
- ②円滑な港湾活動を支える港湾空間の形成



基本方針		施設計画の概要	
(1) 物流・産業の基盤強化	① 日本海側フェリー拠点の形成	<ul style="list-style-type: none"> Ⓐ 耐震強化岸壁（勝納ふ頭） … 防災機能の強化 Ⓑ ふ頭用地造成（勝納ふ頭） … 荷さばき地の拡充によるフェリー機能の強化 	
	② 北海道日本海側における穀物基地の形成	<ul style="list-style-type: none"> Ⓒ ふ頭用地拡張（厩町岸壁背後） … 第3号ふ頭及び港町ふ頭の穀物関連機能（飼料副原料）を移転し、飼料工場への輸送距離低減による効率化 	
	③ 多彩なネットワークで結ばれる対岸貿易拠点の形成	<ul style="list-style-type: none"> Ⓓ 第2号ふ頭拡張（新規岸壁、ふ頭用地、港湾関連用地、臨港道路第2埠頭中央線） … 第2号ふ頭と港町ふ頭との間の埋立による新規岸壁及び用地造成、臨港道路を整備し、ロシア貿易貨物の移転・集約による機能強化 	
	④ 沖合・沿岸漁業を支える水産活動基盤の形成	<ul style="list-style-type: none"> Ⓔ 高島地区防波堤延伸（島堤延伸） … 高島地区の静穏度の確保 	
(2) 観光・交流の基盤強化	① 北海道日本海側におけるクルーズ拠点の形成	<ul style="list-style-type: none"> Ⓕ 大型クルーズ船対応岸壁（第3号ふ頭） … 大型クルーズ船（18万トン級）に対応する第3号ふ頭の岸壁整備によるクルーズ拠点化 Ⓖ 大型クルーズ船対応防波堤（北副防波堤延伸、島堤撤去） … 大型クルーズ船（18万トン級）に対応する港口形状の変更 	
	② 北海道のマリンレジャー拠点の形成	<ul style="list-style-type: none"> Ⓗ マリーナ拡張（防波堤新設・撤去、物揚場、小型桟橋） … 船舶大型化に対応するマリーナ機能の強化 ① 若竹ポートパーク（物揚場、小型桟橋） … 第2期運河係留施設の再編による船だまり機能の強化 ② 手宮地区小型船だまり（物揚場、ふ頭用地、小型桟橋） … 第2期運河係留施設の廃止及び遊漁船、観光船、作業船等の係留場所の再編による船だまり機能の強化 	
	③ 観光都市にふさわしい交流空間の形成	<ul style="list-style-type: none"> Ⓚ 第3号ふ頭基部交流空間形成（物揚場、小型桟橋、緑地） … 観光船発着場の集約や官民で連携した交流空間形成による、「みなと観光」拠点の創出 Ⓛ 築港臨海公園拡張（緑地） … 親水施設の導入によるウォーターフロント空間の創出 Ⓜ（仮称）平磯岬公園（緑地） … 釣り施設の導入によるレクリエーション空間の創出 Ⓝ（仮称）中央ふ頭基部緑地（緑地） … 回遊性向上による交流空間の創出 	
(3) 安全・安心の基盤強化	④ 道央圏日本海側の防災拠点の形成	<ul style="list-style-type: none"> Ⓐ [再掲]耐震強化岸壁（勝納ふ頭） … 防災機能の強化 Ⓔ [再掲]高島地区防波堤延伸（島堤延伸） … 静穏度確保 Ⓖ [再掲]大型クルーズ船対応防波堤（北副防波堤延伸・法線変更、島堤撤去） … 静穏度確保 	
	⑤ 円滑な港湾活動を支える港湾空間の形成	<ul style="list-style-type: none"> Ⓚ 臨港道路小樽港縦貫線 … 4車線化による円滑で安全な臨港交通機能の強化 Ⓟ 臨港道路港町埠頭町線、中央埠頭入船線 … 道道とのアクセス強化による円滑な臨港交通機能の強化 	

小樽港港湾計画の概要

4. 主な港湾計画の内容

港湾計画では、目標年次における港湾の能力(取扱貨物量、船舶乗降旅客数等)、港湾施設の規模及び配置、港湾の環境の整備及び保全、土地造成及び土地利用計画等を定めておりますが、施設計画の概要及び位置図は下図のとおりとなっております。

なお、改訂内容の詳細は、小樽市のホームページで閲覧できます。

5. おわりに

今後の港湾行政を進めていく際には、港湾計画に基づいた施設整備などを行いながら、小樽港の活性化はもとより、地域経済全体の活性化に結び付けていきたいと考えております。

最後になりますが、港湾計画の改訂にあたり、ご指導、ご協力を賜りました、北海道開発局をはじめとする関係機関の皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。

苫小牧港ガントリークレーン4号機供用開始

苫小牧港管理組合

苫小牧港では、令和2年に製作に着手したガントリークレーン4号機が、令和3年12月に完成し、同月17日から供用を開始しました。平成24年以来9年ぶりの増設であり、既設の3基と併せて4基体制となりました。

今回供用を開始したガントリークレーン4号機は、既設の1、2号機同様オンデッキ5段積み13列のコンテナ船に対応することができます。

最大3船同時着岸ができる中央ふ頭は、ガントリークレーンの増設により、計画的な定期点検の実施や故障発生リスクの低減、3船同時荷役の向上などに寄与し、更なる安定的、継続的なサービスの提供が可能となりました。

ガントリークレーンは、三重県の工場で作成・組立及び試運転、各種試験を行った後、苫小牧港東港区中央ふ頭へ輸送を行っています。

船舶の往来に支障を与えず、コンテナターミナルの機能を維持させながら据付することとしたため、水域の占用範囲を小さくできる「ロールオン、ロールオフ工法」(自走による台船上へ積載、陸揚げ)を採用し、

台船を用いた海上輸送を行っています。

海上輸送にあたっては、太平洋側の航行経路である伊良湖水道や犬吠埼などでの海象条件の悪化を受け、出港予定日を繰り下げましたが、三重県の製作工場でロールオンしてから、約5日間の航行を経て苫小牧港に到着しました。

到着後、ガントリークレーンは台船から仮設のレールを介して岸壁上へロールオフしました。次にクレーン全体をジャッキアップし、ロールオン時に90度回転させてあった車輪などの走行装置を既設レールと同じ方向に合わせ、スロープダウン後に、所定の駐機位置まで自走により移動しました。

駐機位置では、輸送用の補強材の取り外しや各種部材の取り付け、給電ケーブルの接続、試験調整を行い操作性や安全性を確認し、無事に供用を開始させることができました。

苫小牧港は、今後も北海道の物流を支える重要な役割を担うコンテナターミナルとして、より一層の円滑で安全なサービスを提供できるよう、関係機関と連携を図りながら取り組んでまいります。



苫小牧港でのロールオフ



初荷役の状況